

新春



編集部若手2人による絵と書のコラボレーション「申」

館報 まつかわ

平成28年 元旦
松川町公民館報 第627号

が期待されるもの

部員との懇談会～

平成27年10月14日



今回の懇談会は、地域住民の主體的な公民館活動が、これからもより大切だと考えられている深津町長の提案により実現しました。
中央公民館からは公民館長をはじめ、専門部（社会部・体育部・編集部）から10名の部員が参加して、まちづくり懇談会形式で進められました。



質問1

大久保編集部長

平成29年度から青年の家に県がかかわらなくなるとい話を聞きましたが、その後はどうなるのですか。

平成22年4月から、松川町が長野県より指定管理を受けています。県からの指定管理料と施設使用料を主な財源として運営してきました。しかし県教育委員会は、青年の研修施設としての役割は終わったということと廃止するという方針です。町からの要望により平成29年3月まで継続となりました。

施設の老朽化が進んでいますが、取り壊す場合は県が費用を負担する考えのようです。今後については、皆さんの声を聞きながら決めていきたいと考えています。6月の議会では、グラウンドを直し、人工芝のサッカー、ラグビーのできるものにしたかどうかという提案をしました。この投げかけに対しては、賛否両論がありました。利用の展望、今後の維持費を考えなければなりません。また合宿など宿

泊施設も必要ではないか。青年の家で行っている松川プログラムを続けていけないか。という意見もあり、元東小施設との兼ね合いも考える必要があると考えています。

現在はそんな段階ですが、周辺自治会の懇談会でも話をしています。

いずれにしても様々な事を想定し、運営管理費用についても精査しているところです。

交流人口の増を図り、松川町のファンをつくり、町の活性化につなげていくことは重大な方針です。うしろ向きにならず、前向きに捉えて考えていきたいです。運営形態についても考える必要があります。また何かいい提案があれば聞かせてください。

大久保編集部長

私は、オートキャンプ場くらいしか思いつきませんが、あつたらいいと思います。



キャンプ場を残してほしいという声。その他、スケートボードやドロウムの練習場などもいいと思います。様々な

意見をどれだけ集めてどう考えるのかどう実現していくかが大切なところでは。

これから町では、検討委員会を立ち上げる段階です。また青年の家も含め、西山を一体的に考える方向です。むらやま公園、まつかわの里、およびの森、片桐ダム、青年の家、フォレストアドベンチャー、池の平を一体とし、これからの誘客施設と考え、ゾーニングをして計画を立てていきたいです。

質問2

子どもたちの思い出に残る行事・遊び場

堀木社会副部長

自分たちが子どものころに楽しかったことを、今の子どもたちが体験できているのか考える時があります。

例えば片桐松川が整備されてしまつて、自分たちが遊んでいたところとずいぶん雰囲気の違いがあります。松川さん祭りもあり、楽しみにしていたお祭りでした。

子どもたちの楽しい思い出があれば、県外に出ても、そのあと帰ってくると思います。

まちづくりに公民館

～深津町長と本館



松川町では数多くの行事が開催されています。特にこれからの秋には毎週土日どこかでイベントが開かれ、多くの皆さんでにぎわっています。地域、住民、行政が一体となつて盛り上げていくことが大切であり、子どもたちの大きな思い出になると思っています。

様々な問題点等を集めていくと、教育に行きつくと考え、学校、家庭、社会教育を大切にしたいと思います。この教育の重要性についてよく教育長と話します。

基礎学力の向上と社会性身に付けること。人と人とのつながりを大切に、ふるさと意識の醸成をはかっていきたいと考えます。

質問3 町民運動会の今後

平澤主事補

今年度、大島地区協議会主事として町民運動会の開催に携わりました。今年度、例年ないことを取り入れて工夫しました。苦勞はしたし、

参加も少なめでしたが、子どもたちもたくさん参加し競技中の参加者はとても楽しそうでした。その顔を見て、本当に開催してよかったですと感じました。また地域の笑顔の大切さを感じました。やめるという意見も多くありますが、やってみて地域の力、子どもたちの力は大切だと感じました。町長はどうお考えですか。



運動会にいかにか飛び込んで楽しんだか。自分で楽しんだかが大切だと思います。

参加者の増にもつながるのではないのでしょうか。地域の皆さんが一堂に会し笑顔でスポーツを楽しむことは、絆の深まりにもつながると思います。

質問4 公民館研究集会に向けて

堀木社会副部長

研究集会について、ここ2年は若者に焦点を当てて取り組んでいます。若者と公民館

またリニア等についても話し合っています。

今年度は多くの若者に参加していただいで、若者が何をやりたいのか掘り下げていきたいと考えています。



若者のやりたいことを知り、それを具現化するにはどうすればいいかというのを考えていたと思います。公民館だけで、また行政だけではなかなかできません。公民館を行政がバックアップしていくべきだと思います。いろいろな意見の中で、町が協力できることが生まれればいいと思います。

堀木社会副部長

研究集会で何かしらの形でまとめた意見を町に提出できればと考えています。

高坂体育部長

若者の中には、自分たちが言っても何も変わらないと考えている人もいます。今度の集会で自分たちの意見も形になるんだということが分かってもらえるといいと思います。

最後に 地域づくりのために 一歩進む提案を



これからは、財源的にも厳しくなり、地域のことは地域でということになってきます。住民と行政が一緒になって町をつくっていくなければいけないと感じています。そんな中で、公民館活動や生涯学習が重要だと感じています。地域づくりということで、一歩進むような形で行政に提案してほしいと思います。

まとめ

2時間におよぶ懇談会でしたが、まだまだ話したりないと感じるくらい充実した時間でした。今回掲載した以外にも、今後の公民館活動の参考にできるような質疑がされました。

その人らしく生きる

12月12日 まつかわ大学第3講座
町体トレーニングルーム



看護のために30以上の資格を持つ大澤さん

「その人らしい最期を迎えるときは、その人の生きてきた形、生き方が最期にあらわれる」…とても深いようで、意外と単純なこともかもしれない。しかし、人生そのものが死ぬときにあらわれるということは、日々の生き方が大切ということであり、これは単純ではない。

今年度3回目のまつかわ大学では、介護や看取りの現場を数多く経験されてきた、ユニバーサルデザインヘルスケア

ア研究所所長・大澤智恵子さんを講師に迎え「その人らしい生き方・その人らしい最期」をテーマとした講演が行われた。家族を介護し、その人の最期を看取るとき自分にできることは何か。あるいは、自分らしい最期を迎えるには、どう人生を生きていけばよいのか。そんなことを考えさせられる時間となった。

看護師でもある大澤さんは、はじめは仕事への不満ばかりを抱えていたが、さまざまな看護の現場を経験するうちに、変わらなければいけないのは周りではなく自分であることに気づいたという。たとえ病気になっても、自由なことがあっても、その今の自分にできることを見つけて出し実践する人たちがいる。大澤さんは介護や看取りの現場の中で幾人ものそうした人たちに出会い「自分らしさを考えながら、家族との関係性も大切にしてほしい」と語りかけていた。

町民運動会の今後について 話し合いが進んでいます

12月3日に第3回町内館長主事会が開催され、そのなかで町民運動会について話し合われました。

町民運動会については、平成25年度からその開催について検討されてきており、昨年度にはアンケートを実施。その結果を受けて今年度さらに話し合いが進められています。

大島地区協議会

今年度大島会場の運動会は、時間を1日から半日にし、種目も変更するなど新しい試みをいくつか取り入れて開催しました。

以前より参加者は少なくなっています。当日参加してくれた自治会がひとつになっ生きている姿、子どもたちが生きて競技を楽しむ姿を見ると「やって良かった」「町民運動会はまだ終わらせてしまう事業ではない」と感じました。開催には賛否両論ありますが、大島地区協議会として協議した結果、来年度以降も町

民運動会を継続して開催していく方向で進めていくことになりました。

上片桐地区協議会

上片桐地区町民運動会の今後のあり方については、12月5日(土)に開催した第5回体育委員会に過去の役員経験者を招き、①アンケート結果、②アンケート結果を受けて27年度に講じた改善策、③町民運動会の意義、④各分館における選手選出の実態などを踏まえて検討を行いました。

アンケート結果は様々な捉え方をすることができ、実施(52%)が中止(46%)を上回っており、また何よりも、この地域の将来を担う子どもたちが運動会を楽しんでくれていることなどから、直ちに中止することにはならないだろうという結論に至りました。

ただし、分館役員の負担や参加しやすさなどを考慮し、開催日、開催時間および競技種目について、引き続き検討していくこととしました。

生田地区協議会

第2回町内館長主事会にて、各地区協議会で今後の町民運動会について検討し、方向性を出すことが確認されましたので、検討を始めています。

・2年連続で、生田地区の運動会が天候不順により実施できていない。
・管理されたトラックがなく、毎回トラック作りから始まるため時間がかかる。

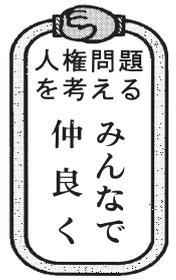
・参加人数が少ないために、1人で何種目も出なくてはいけない。
・やめるのは極端すぎるので、縮小しても継続をしたほうが良い。

・競技種目の内容を見直し、皆で簡単に参加できるものに変えてみては？

今はこのような意見が出ています。

まとめ

各地区協議会では、このように進んでいます。3月に開催される第4回町内館長主事会では、検討の結果について情報交換を行い、確認する予定となっています。



松川中学校では、12月7日(月)に人権教育講演会として、「聴覚障がいのある方の生活と聴導犬の役割」についてのお話をお聞きしました。生徒たちの生活記録から感想を掲載します。

今日6時間目に聴導犬についての講演会がありました。耳の聞こえない方たちは、目とは違って外見では(話しかけないと)分かりません。たくさん苦労もしてきたと思います。でも、聴導犬が自分のそばにたつた1匹きでもいると、心によゆうができて、生活が少し楽になるんだなあと思いました。今、自分が不自由なく生活できることに感謝したいです。そして、障がいをもって、不自由に生活している方には、少しでも助けをあげたいです。

今日は6時間目に人権講演会で、3匹のカワイイ犬とそれを説明して下さる方々が来て下さいました。聴導犬と介助犬の2種類で、音に反応して人を呼んだり、助けたり、本当にすごいなあと思いました。助けてくれたりするだけではなく、心の支えにもなってくれるなんて、耳が聴こえない方々も安心して生活できるんじゃないかと思えます。ワンちゃんたちすっごくかわいかったー♡



今日の聴導犬の講演会はすごく興味深かったです。理科の帰りにチラッと見えて「犬だ!」と思いました。こんな感じが、子供達なんだとは思いませんでした。落とした物をすぐひろつたり、チャイムを知らせてくれたり、朝おこしてくれたり、耳が聴こえない人にはすごくたよれる犬たちなんだなあと思いました。私は五体満足ですが中にはどっかどっか不自由な人が必ずいます。そういう人によりそって生活出来る聴導犬は本当にすばらしいと思いました。

はなくてはならない存在なのだと思います。私も聴導犬のことはくわしく分かりませんが、今日分かった。もつと色んな人に聴導犬の大切さを知ってもらえればなうと思えました。

今日の講演会で私は、はじめに聴導犬を知りました。犬もとてもすごいと思ったし、このお仕事をしている人、ボランティアの人、お金をとらず活動して大変だと思うので、金箱が立つたらば金を少しだけでも役に立ちたいです。耳の不自由な方が安心してくらせるようになるので、本当に犬の存在は大きいと感じました。とてもすごいと感動しました。今日、とても勉強になりました。

今日、人権教育講演会がありました。体育館に聴導犬が3匹来てくれました。実際に聴導犬がどういいう仕事などをしてくれるのかやってくれたりして、物を拾ってくれたり、くつ下やスリッパをぬがしてくれたり、インターホンなどくりしたし、インターホンなど時計の音がするとちゃんと飼い主の人に知らせています。すごいなと思いました。耳の聞こえない方のお話を聞いて、耳が聞こえないという大変で苦労するんだなあと思いました。私は体になんががいを持っている人や聴導犬のために何かできればいいなと思ったので、自分が協力できることは協力していきたいと思えます。

松川町の宝 舟形庚申供養塔 第8回

今年「申年」にちなんで平成26年に指定された生田福与間沢の天神山にあります「舟形庚申供養塔」を紹介します。

高さ88cm、幅39cmの舟形碑で、安山岩製。碑表には三臂(三本の腕)の青面金剛像を厚肉彫し、頭の上には日・月、足元には鶏、足下には三猿が彫られています。



ているすきに体内から脱け出して人間の罪悪を天帝(宇宙を司る神)に告げる役目を司っています。天帝は人の罪科を記録し、罪の軽重に応じて寿命を縮め、時には命をも奪うと言われています。そのため三尸が体内から抜け出ないように、庚申の夜は無病息災を願いながら寝ないで夜を明かすという庚申待ちという民間信仰が近年までありました。余談ですが、三尸は弱弱が嫌いということで、庚申の日に弱弱を食べて退治していたそうです。

庚申供養塔は様々なタイプがありますが、天神山の供養塔には今年「申年」の干支の三猿が彫られています。猿がなぜ彫られているか諸説ありますが、庚申の「申・さる」からという説、庚申信仰では猿が庚申尊の使いとされ、「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿が結びついたという説があります。

「ゴウシン」と読みます。そしてこれを曆に当てはめると、60日ごとに庚申日が訪れ、60年に一度庚申年が廻ってきます。節目である「還暦祝」は、この60の干支の組み合わせが一週したことを意味しています。

貴族社会で始まったといわれる庚申信仰が最も活発に信仰されていたのは江戸時代中頃です。信仰の考えは人間の腹の中には「三尸(さんし)」と呼ぶ三匹の虫がおり、些細な過ちも見逃すことはありませんが、その三尸は、60日に一度廻ってくる庚申の夜、人が眠つ

寒さに負けるな!! スポーツ

第29回松川町 ダブルスバドミントン大会

12月13日(日)に町民体育館で第29回松川町ダブルスバドミントン大会が行われました。結果は次のとおり。

〈男子 がんばる〉

優勝

津野 翔吉・熊谷 悠吾
(ジュニア)

準優勝

北林 大輝・高柳 佑太
(体協)

3位

竹村 明浩・片桐 和也
(桑園東部)

〈男子 たのしむ〉

優勝

北原 和人・小池 久男
(上片桐)

準優勝

大場 陽一・川瀬 広美
(名子)

3位

岡本 泰彦・福沢 智規
(上片桐)

〈女子〉

優勝

下井 千瑳・高田あゆみ
(ジュニア)

準優勝

武松 京子・下沢 智子
(上片桐)

3位

橋場 瑤子・小山 美月
(ジュニア)

平成27年度松川町女性 ソフトバレーボールリーグ

12月7日(月)に平成27年度松川町女性ソフトバレーボールリーグの閉会式が行われました。

りんごブロック

第1位 Noisy

第2位

ファーストレディー

第3位

城北ファイブズ

第4位

ドリームズ

なしブロック

第1位 ママドルズ

第2位 増野FCM

第3位 スリーピース

第4位 ウイルソン



平成27年度MTV杯 松川町総合9人制 バレーボール大会

12月20日(日)に中学校体育館にて、MTV杯松川町総合9人制バレーボール大会が行われました。結果は次のとおり。

優勝 トップ

準優勝 TAMARIVER

第3位 ポッキー

毎月第3日曜日は

家族ふれあう

「家庭の日」

平成27年度 まつかわ大学 第10期 第4講座

嬉しいことばが自分を変える

元NHKアナウンサーの村上信夫さんが伝える「嬉しい言葉の種まき」で、松川町にも笑顔の花を咲かせます♪

講師 村上信夫氏(“ことば磨き塾”主宰)

「ラジオビタミン」や「鎌田實いのちの対話」など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を講演で回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」、月刊「清流」連載対談などで、新たな境地を開いています。

今回は、言葉のもつ力、コミュニケーションについて伺います。

期 日 2月6日(土) 13:30から

13:10から松川中学校吹奏楽部の演奏があります。

講演会終了後、閉講式を行います。

場 所 松川町民体育館 トレーニングルーム

受講料 会員・高校生以下は無料、一般の方は500円

※まつかわ大学第10期生以外の方で聴講を希望する方は、座席や資料準備の都合上、事前にお申し込みください。
※無料の託児サービスがご利用いただけます。(要事前予約) 1週間前(1/29金)までに、下記へお申し込みください。

お申込み・お問合せ先

松川町中央公民館 電話36-2633



今月の公民館

順調に基礎工事が進んでいます。



声 わら細工 クリスマスリース作り おもちつき大会

上大島地区 公民館

水野 なおき

おやすは、むずかしかったけど、前にも作ったことがあったので、うまくできました。リースは、しばるのがむずかしかったので、うまくできなかったです。おもちも、とてもおいしかったので、おかわりもしました。しようゆ味がおいしかったです。

また、らい年も行きたいと思います。ありがとうございます。



坂井 里咲

上大島公民館のクリスマスリース作り、おやす作り、もちつきに参加しました。

リースに自分の好きな飾りやリボンをつけていくのが楽しくて夢中でやりました。できあがったリースは家に持ち帰って飾りました。

リース作りが終わったあとは、もちつきをしました。友達とテンポ良くつけました。ご飯からおもちになっていくのが見ていておもしろかったです。6年生の私は、ついたおもちでかみもちを作りました。ヒビが入らないようにするのが難しかったです。



みんなですいたおもちに、きなこやゴマ、あんこをつけて食べました。あまり経験できないことなので楽しかったです。



2016年

新年、あけましておめでとうございます。年の初めにする、ことといえば、書初めですよ。書初めをされた方はいらっしゃいますか？ 私は、もちろんしました。書いた字は今年の干支の「申」です。たった一文字ですが、書初めに文字数など関係ありません。

お気づきでしょうか。今月の公民館報の表紙の文字、実は私が書いたものです。私は、5歳の頃より書道習わせてもらい、気づけば大人になった今でも続けています。

今の時代、自分の手で字を書くことが非常に少なくなっています。いつか、書道という文化や、文房具までもがなくなってしまうのではと心配しています。

私は、自分の手で文字を書くというのを一番大事にしています。メールを使えば一瞬で相手に気持ちを伝えられますが、そのメールは誰が打つても同じ文字です。

大事な場面の時には、自分の手で書いてほしいと思います。上手い下手は関係ありません。メールよりも、その人が書いた文字の方が相手に気持ちが伝わります。字はその人を表すからです。ぜひ皆さんにも、自分の字を大切にしたいと思っています。

(中島李野)

公民館報
「まつかわ」
第 627 号
平成28年1月15日

発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部

Tel 36-2633

e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp

飯田市上郷黒田121

印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。